

海外安全対策情報（平成29年4月～6月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2017年1月1日から3月31日（2017年7月28日時点での最新情報）までのベラルーシにおける犯罪総数は21,293件で、前年同時期と比較し7.8%減少しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗7,284件（前年比13.8%減）

（うち住宅対象侵入窃盗）2,373件（同7.5%減）

イ 公然窃盗351件（同27.0%減）

ウ 恐喝33件（同26.9%増）

エ 詐欺1,134件（同13.0%減）

オ 暴力犯罪884件（同6.8%減）

カ 殺人及び殺人未遂85件（同17.5%減）

キ 重傷傷害183件（同16.4%減）

ク 強盗39件（同40.9%減）

ケ 強姦及び強姦未遂46件（同24.3%増）

(2) 邦人被害事案は報告されていません。

(3) 2017年4月～6月における主な被害事案は以下のとおりです(当地の報道から作成)。

ア 4月10日、軍役から戻ったばかりのエゼリシェ村（ヴィテプスク州ゴロドク地区）の24歳の住民が、ビールを飲んでいたら若者たちの側をすれ違った際、自分にも酒を注ぐよう促したが、男の呼びかけに誰も反応しなかったため、男はエアガンを取り出し、若者のうちの1人に向けて4回撃った。

イ 4月10日、ミンスク市にて内務局の麻薬検査職員が、市中心地にあるゲーム店の近くで、鎮痛剤及び抗てんかん薬をスロット台の側で販売していたというミンスク市在住の39歳の男を拘束した。その男は麻薬中毒者であり、麻薬中毒者療養所で正式な予防検査登録がなされていた。また、男が販売していた薬は、療養所から治療のために処方されていた

ものであることが明らかになった。男は以前にも、違法な麻薬の取引で度々刑事責任を問われていたという。

ウ 4月24日、警察に、司祭を装った男に35米ドルをだまし取られたとする住民からの届け出があった。また同日、見知らぬ男に30ルーブルをだまし取られたという、類似した届け出がもう1件あることが分かった。

捜査の過程で男は司祭を装いながら、家々を回り部屋のお祓いをしていたということが明らかになった。その際、男はお守りを買うか、がんの子供たちへの寄付金を渡すよう要求していた。

5月23日、犯罪捜査課によって44歳無職の前科のある男が拘束された。

エ 6月13日、国家保安委員会（KGB）は今年、8名のテロリストを拘束したと発表した。これらの人物たちはシリアで国際指名手配中であったテロや過激派の活動に参加していた者たちであり、そのうちの1人はドイツからやってきた人物であった。

最後に取り押さえられた男は起爆装置を持っており、ヨーロッパでテロを起こそうとしていたという。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道を確認する等し、自身の安全確保に努めてください。